

# プロスポーツ振興「栃木モデル」構築に関する研究会

## 第3回 【会議レポート】

日時：2014年5月30日（水）16:00～18:00

場所：作新学院大学 中央研究棟 1F 108 教室

テーマ：スポーツコミッションの意義と可能性を考える（講演会形式）

講師：原田宗彦氏（早稲田大学スポーツ科学学術院 教授）

### 1. テーマ

第3回の栃木モデル研究会では「スポーツコミッションの意義と可能性を考える」をテーマに、我が国でスポーツコミッション推進の第一人者である原田宗彦先生をお招きし、講演会を実施した。2020年の東京五輪を控えた昨今、スポーツの力を最大限に活用し地域活性化を図るために栃木県では何をすべきか、今回はそうした問いを深める契機として位置づくものである。講演は「①スポーツコミッションとは」、「②日本型スポーツコミッションの仕事」、「③我が国における事例」の3つのパートで構成された。以下ではその概略をまとめる。



### 2. 講演の概要

#### ①スポーツコミッションとは

このパートでは、フィルムコミッションに倣いながらスポーツコミッションの定義が確認された。フィルムコミッションは、撮影隊が支払う経済効果や作品鑑賞を通じた観光客の増加に期待する組織で、作品（ドラマや映画）の持つ力に着目したものである。それに対して、スポーツの持つ力に着目したのがスポーツコミッションである。原田氏によれば、スポーツコミッションとは「スポーツで地域経済を活性化するスポーツツーリズムの推進組織」のことであり、スポーツ合宿やスポーツイベントの「ワンストップサービス」などを行う主体だと説明された。

#### ②日本型スポーツコミッションの仕事

米国ではインディアナポリスでの成功を契機に各地でスポーツコミッションの創設が相次いできたが、こうした先進的な取り組みに学びつつ日本型のスポーツコミッションの在り方考える必要がある。原田氏は、日本型スポーツコミッションの主たる仕事として下記の5点を提案した。

##### 日本型スポーツコミッションの仕事

- 行政が行うスポーツ振興事業の支援
- 国内外スポーツイベントの誘致・開催支援
- スポーツ合宿の誘致・振興
- スポーツに関する情報・サービス提供（施設案内、アクセス、食事）
- 地元プロスポーツとの連携（チケット販売、プロモーション、合同イベント）

出典：原田氏配布資料

財政的に困窮しつつある行政が担うスポーツ事業を支援したり、スポーツイベント・合宿を誘致する事務局機能を持つ。さらには、シティプロモーションを意図した情報提供事業や地元プロスポーツクラブとの連携事業も実施することが求められるという。原田氏は「栃木県は経営資源の発掘に力を注ぎ、それを上手くプロモーションすることが重要」と述べ、栃木でのスポーツコミッションの実現の必要性を指摘した。

### ③我が国における事例

我が国では各地でスポーツコミッションの創設が相次いでいる。たとえば、2011年10月に設立したさいたまスポーツコミッションは、2013年に世界的なロードレースイベントであるツールドフランスの誘致に成功し「さいたまクリテリウム by ツールドフランス」を開催するなど、国内の先駆的存在として注目を集めている。こうしたスポーツコミッションの設置に向けた動きはその他の地域でも盛んであり、昨今においては関西、佐賀、新潟などでも設置され、2015年4月には沖縄でも新設予定であるという。

### 3. 総括

本講演を通じて明らかになったことの一つは、米国で誕生したスポーツコミッションというシステムについては、一定の肯定的な評価が付与されつつ日本国内で紹介されることを通じて、いくつかの地域で導入され始めていることである。換言すれば、現時点でそうした仕組みは、全国各地で均一的に採用されているものではなく、地域経済の活性化とシティプロモーションを重要視する地域による差別化戦略として選択的に導入されているものなのである。つまり、この仕組みを活用するかどうかは地域ごとの戦略として決定されるものであり、栃木でもこうした潮流に乗るのか、その決断に向けた検討が必要とされているのである。

さらに、スポーツコミッションの事業内容についてはかなり多岐に渡ることも、今回の議論から浮き彫りになってきた。そして、そうした諸事業を通じて効果的に地域活性化を実現させるためには、地域内の多様なアクターが参画し、クリエイティブな議論を重ねていく必要がある。多様な主体で構成される本研究会には、スポーツコミッションという仕組みの功罪について今後も検討を続けながら、栃木の活性化に繋がる産官学の協働体制の在り方を提示することが求められよう。



文責：関根正敏（作新学院大学 講師）